

## 加茂地区の世帯・人口

世帯数 2,364 世帯  
 人口 4,636 人  
 男 2,325 人  
 女 2,311 人  
 令和4年7月1日現在

# かも福祉だより

令和4年9月1日発行  
 第17号

発行者  
 加茂地区社会福祉協議会  
 事務局  
 吉沢学園交流棟  
 市原市吉沢117番地

## 敬老会事業(敬老会)中止・ 長寿お祝事業実施のお知らせ

本年度より、加茂地区敬老会を発展させるために敬老会事業と長寿お祝事業の2本立てで望むことになりました。

敬老会事業は、9月25日(日)に予定しておりましたが、新型コロナウイルスが拡大傾向にあり、皆様の健康を守るということで敬老会をやむなく中止としました。

長寿お祝事業は、9月中旬に対象者全員(75歳以上・昭和23年4月1日以前の生まれ)へ、町会長を通してお祝品をお贈りします。

## 講演会 今を生き抜く力

### 山川 建夫氏(元フジテレビアナウンサー)

30数年前、旧里見小の前にあるラ・マルタの建設にかかわって、あの台地から木更津方面に沈むきれいな夕日を観ながら、一筋の煙が立ち昇る柿木台の景色に魅せられて私たち家族の本格的田舎暮らしがスタートした。

田んぼの草取りを数日した後、地方の講演に出かけたが、その会場で突然気分が悪くなった。少し休めば良くなると自分では思って、救急車も必要なしと言ったものの、昼食はすべて吐いて容態がさらに悪化、たまたま会場に居合わせた医者から「命にかかわる」との進言で急遽病院へ搬送された。初めて「熱中症」と診断され、健康には自信があったがこの経験で自分の身体のこと、特に代謝機能の衰えと食べ物を意識するようになった。身体を使って畑や田んぼの仕事に汗を流し、初めて自家米を食べたその



美味しさに家族が大喜びしたことは忘れられない。この加茂の地もかつての空気や水のおいしさも消えつつあるような気がする。それだけにこの豊かな自然を守ることも私たちの使命ではないだろうか。

山々に囲まれ養老川という地の利は、山に広葉樹が増えれば、水がきれいになり、土も肥沃になる。それを可能にする人間が集まって欲しい。そのためには、ここに住む私たちが幸せであることが大事であるが、今、加茂には自然の豊かさに加え、「人々の豊かさ」が求められているような気がする。

命の基本である土・空気・水を守ることが、これから生き抜く力となるのではと思います。次の世代にも新たな動きも見られます。ここにお集まりの皆さんや地元ですっと頑張っている人たちとも交流の機会を持ちながら、加茂の地が新しく変わっていくことに少しでもお手伝いできればと思います。

加茂地区社会福祉協議会 副会長 宮原 誠一 記

## かもよろず相談所

加茂地区にある4福祉施設と地域包括支援センタートータスに「かもよろず相談所」を開設して2年目になります。

まだまだ知られていませんので、新しくチラシを作成しました。お気軽にご連絡していただき、困りごとを解消して安心した生活を送りましょう。詳細はチラシをご覧ください。



## 移動スーパーによる買い物支援 堅調に進む

若い人とは、食べ物の嗜好が違う。食べ物を買って来てはくれるが、「自分に合ったものを買いたい。」「自分で見て、選んで買えるのが嬉しい。」「話ができて楽しい。」



これは、移動スーパー「とくし丸」及び「ヤックスらくちん便」のお客が、共通して言われていることです。

現在、加茂地区内で行われている主な移動スーパーの販売実態は次のとおりです。

- \* 1台増車され加茂地区専用1台配備された「とくし丸」は、月曜日から金曜日までの5日間、1日あたり20軒近くのお宅を訪れています。
- \* 「ヤックスらくちん便」は、毎週木曜日に、8町会内9箇所、60人を超えるお客に販売しています。
- \* 「とくし丸」は軽トラックのため個人宅まで訪問できる特性があり、「ヤックスらくちん便」は1トン車なので扱い品目が豊富で、希望があれば衣料品も扱う、と話されています。加茂地区第2層協議体では、今後も住民の方の買い物利便性向上に向け、必要に応じ関係業者との連携強化を図ります。

“明日の加茂を考える”加茂地区第2層協議体 副代表 中村 直樹

## 公共交通空白問題について

昨年度に引き続き移動支援部会の会議を重ねております。

コロナ禍の中、緊急事態宣言で当初の予定より遥かに遅れが生じましたが、今年度新たに3人の地区会長の参加をお願いし、計15人で進めております。

少子高齢化の中、益々高齢者の自動車免許返納が増加し、交通移動手段が困難になるのは事実です。

そんな中、公共交通の届いていない空白地域には、どのような対応をしたら良いかを考えて、自家用有償旅客運送とデマンドタクシー(乗合タクシー)の2つの方法が協議され、利用者が「安心・安全」に移動を任せる事ができるのは、デマンドタクシーの方が一番の選択として、今進めています。

“今は大丈夫”ではなく、5年後10年後を考えて地域の皆が元気で楽しい生活ができるように望みます。

地域皆様のご理解とご協力を切にお願いします。

“明日の加茂を考える”加茂地区第2層協議体 代表 明賀 彦之



## 加茂地区社会福祉協議会賛助会員へ加入のお願い

少子・高齢化や核家族化などが進行し、高齢者世帯や独居世帯などの増加により、地域には複雑かつ複合的な生活課題を抱えたまま生活を送っている方々も増えております。

今後、ますます増大する福祉及び生活問題に対応していくためには「地区社協」としてできるだけ多くの自主事業費を確保する必要があります。そのためにも賛助会費は大切な財源です。

皆様にはこのことをご理解いただき「加茂地区社会福祉協議会賛助会員」としてご支援・ご協力をいただきたくお願い申し上げます。

これからも加茂地区独自の力で高齢者の集いの場として「加茂地区敬老会」「いきいきサロン」を続けていこうと考えております。

1. 賛助会費 年額 一口 1,000円(口数は問いません)

\* 問い合わせは加茂地区社会福祉協議会役員及び理事にお願いします。





# 加茂地区小域福祉ネットワーク

## 富山地区

会長 中村 直樹

旧富山小学校区地区防災計画が完成いたしました。

### 【策定の背景】

富山地区小域福祉ネットワークでは、令和元年の台風被災後に、構成員22名からなる**災害対策検討作業部会**を設置し、災害に対する情報・知識の共有化を図り、また、地区の課題等を話し合っていました。

### 【策定方法】

その様な背景のもと、地区防災計画策定にあたっては、多くのネットワーク推進委員や、加茂支所長、加茂学園教頭先生の御協力を頂き、「避難所運営」、「安否確認」及び「避難誘導」等についてグループ討議の形式で、意見集約を行いました。

### 【今後の対応】

この地区防災計画は、市原市防災会議で承認されたものであり、今後は**富山地区の住民の方に配付**するとともに、**地区独自の防災訓練を実施**することにより、防災力向上が図れると期待されます。



## 里見地区

会長 武内 博文

### 健康祭り

7月15日(金) 旧里見小学校避難所に集まってお楽しみいただき、初めての健康祭りを開催いたしました。62名という多くの方が参加していただきました。

まず、受付で名前を書いて頂き、その場で左右の握力をはかりました。次に、ラジオ体操を全員で行い、椅子座り立ち30秒測定を2人一組で交互に測りました。さらに、咀嚼力判定ガムを60秒かみ、ガムの色が緑から赤に変われば咀嚼力があるということで口腔は正常。午前中の三つの測定値をそれぞれ記録簿に書き込み、世代別の平均値と比べ、ほとんどの方が体力低下を感じたようです。

昼食は里山食堂の美味しいカレーをお代わりしながら食べました。午後は、なのはな館の歩行用プールの利用のすすめ、石川薬局の石川寿一先生に薬のお話をしていただき、加茂にお住まいのヨガ講師の堀工ミイさんによる椅子に座りながらのヨガを体験しました。体力を知り身体も心もリフレッシュした楽しい時間を過ごしました。「参加してよかった。」「来年もお願いね。」等の感想も聞かれました。



## 高滝地区

会長 宮原 誠一

### 活動状況

7月13日(水) 第2回の推進委員会を加茂公民館に於いて34名の参加で開催しました。フォローアップ研修では「地域の高齢化と一人暮らし」というテーマで地域包括支援センター・トータスの職員から「最近の高齢者への対応から気づくこと」を話していただき、各地区の民生児童委員から見た「地域・高齢者・子供たちの様子で気づくこと」を述べてもらいました。

一人暮らしに潜む様々な課題が浮き彫りにされる中で、ネットワークの「安心生活見守り活動」は特に民生児童委員や町会との連携が必要だとされました。また、地域包括支援センターの業務内容について住民の理解を図る必要があるということと、駐在所との連携が図ればもっと良いのではないかの意見も出ました。

「子どもの安全見守り」の活動では、子供たちの登下校の見守りだけでなく、通学路の危険箇所の指摘や整備要請なども心掛けるべきだという意見も出ました。今後、町会や関係組織とも協力しながら進めていくことを確認しました。



## 白鳥地区

会長 相川 誠一

会長が変わりましたのでご挨拶申し上げます。

5月14日の通常総会で、会長に選任され重責を担うことになりました。昨年、町会長として地域活動を行い、少子高齢化、過疎化に加えて異常気象による災害、鳥獣被害による農産物被害と自然荒廃の厳しい状況を知りました。

このような状況の中で地域住民のより良い暮らし、安心安全を守るための活動を行っている小域福祉ネットワークは地域にとって重要な組織だと思っています。まだこの組織に参加したばかりで勉強不足の点が多々ありますが、諸先輩が築き上げてきた活動を継続し、少しでも地域の社会福祉、活性化に貢献できるよう取り組んで参りたいと考えております。

市・福祉協議会・町会・関係する組織との連携、協力は不可欠です。皆様方のご指導ご協力をお願い申し上げます。



入居定員50名の特別養護老人ホームです。併設のデイサービスセンターは定員25名で、月～金曜日においておいしい食事やレクリエーションなどを提供しています。地域との交流として、市原高校の介護コースの生徒を対象に介護職員初任者研修への講師派遣・実習生受け入れをして、職員採用に繋げています。また、高滝救友会の皆様とAEDの操作訓練を実施しています。今後も地域活性化のために協力してまいります。

### 高滝 神明の里

### 施設の状況

### 昭和村

### 緑祐の郷

### 吉沢学園

日頃より地域の皆様には、ご理解・ご協力を賜りありがとうございます。ここ数年新型コロナに翻弄される日々ですが、そんな日常に少しでも「彩り」をと職員一同奮闘しております。3月下旬には、高滝湖を一望できる屋上にて、お花見会を開催しました。見事な眺めでした。夏祭りの開催も滞っておりますが、来年こそ、コロナの終息と共に、また皆様と交流できることを楽しみにしております。今後とも緑祐の郷を宜しくお願い致します。



昭和村は、お元気な方から介護度のある方までお世話させていただく老人ホームです。又、デイサービス・ヘルパー派遣事業の他ケアマネジャーもいます。



昨年、「よろず相談所」の看板も掲げ、又、万田野の道のゴミ拾いも年に数回実施しております。地域の一員として皆様に少しでも貢献できるよう職員全員で頑張らせていただきます。お困りの点等ございましたらご連絡をください。

吉沢学園では、吉沢町会のガードレールの清掃や除草作業、ごみ拾いなどを通じて地域貢献に取り組んでいます。

特に、妙見神社と鳳来寺観音堂周りの除草は念入りに行っています。ガードレールを磨いている時やごみ拾いをしている時に、地域の方から「頑張ってるね」「いつもご苦労様」と声をかけていただけるのが励みになっています。これからも自分たちにできることを地域の皆様と共に歩む法人でありたいと考えています。



## 若い人が押し寄せています

### 高滝湖グランピングリゾート

閉校した高滝小学校をリノベーションし、昨年オープンした今話題のグランピング施設です。高滝湖畔に立地した心地よい環境と自然を感じながら様々なアクティビティやBBQ、夜はキャンプファイヤー等が楽しめます。テント内や専用のBBQ小屋等、キャンプが初めてでも安心の設備を備え、「学校でキャンプ!」っていうワクワク感を大人からお子様まで思う存分楽しめます(ペット連れ専用テントも有)。7月～新設バレルサウナもオープン。



## 移住して

### 長谷川ライディングファーム

会長 長谷川一誠

加茂地区で乗馬クラブを開業して22年となり理想のクラブを目指しています長谷川ライディングファームです。55歳で脱サラし40歳から家族6人で趣味として楽しんできた乗馬を「馬・メンバー・スタッフ」の為に安全で安心して楽しめる乗馬クラブを作ってきました。ここ加茂地区は、静かで自然豊かでありながら、アクアライン・圏央道の利用で都心や神奈川・埼玉から、日頃の喧騒から離れて馬との癒しと運動に汗を流して楽しんで貰っています。馬は人間と同じく汗をかき、4歳の子供と同じ知恵を持っています。心より可愛がって接してやれば本当に可愛い動物で癒されます。幼稚園の子供様から80歳までの幅広い年齢の方に楽しんで貰っています。これからも加茂の皆様方に第二の人生の趣味とスポーツとして、利用して頂ければと考えております。

